

島根 更生保護

NO.216

(令和5年1月1日発行)
島根県保護司会連合会

〈島根更生保護データ〉

保護司総数 515人

保護観察事件 106件

生活環境の調整事件 182件

(4.12.1現在)



「雪の里山」(元浜田地区保護司 杉田雅弘氏撮影)



新春のごあいさつ ～更生保護と地域のチカラ～

中国地方更生保護委員会
委員長 三本松 篤

新年おめでとうございます。

島根県の更生保護関係者の皆様方には、お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

本機関紙をご覧になっている皆様、日頃から地域の更生保護の取組に御理解と御協力をいただいていることに、深く感謝申し上げます。

この3年近くの間、新型コロナウイルスが全国的に蔓延し、地域において、接触、対面、密な関わりを重視してきた更生保護の活動は、大きな制約を強いられました。しかし、コロナ禍にあっても、多くの更生保護団体において、情報通信機器の活用など、新しい流れを取り入れながら、会議、協議、広報といった活動を活発に展開しており、その創意工夫する力や向上心には感服するとともに、感謝の念を抱いております。

近年、更生保護において、再犯の防止と併せ、生

きづらさを抱える者に息長く寄り添うことが取り上げられ、活動領域は、より広範に、多様化しています。犯罪や非行を繰り返さない指導と並んで、保健・医療・福祉分野との連携を踏まえた生活環境の調整など、社会生活を支え、そして、社会参加を促す働き掛けが重視されています。この取組は、国と地方が連携し、地域の様々な人たちの理解と協力を必要としています。

更生保護を推進することは、再犯防止と改善更生への支援を通じて、地域に貢献することであり、社会復帰の手助けをすることに止まらず、私たちが住みよく、生き易い社会を作っていくことにもつながります。皆様におかれましては、犯罪や非行をした人たちが円滑に社会復帰への道のりを歩むことができる社会環境づくりに、そして、共生社会の実現に向けて、これまで地域において培ってきた経験や知恵を結集し、私どもと共に取り組んでいただきたいと切に願っています。

最後に、今年一年の皆様と御家族の御健勝を心より祈念申し上げます。



新年の挨拶

島根県更生保護女性連盟

会長 山脇 里美



癸卯歳、令和5年の新春を恙なくお迎えのこととお慶び申し上げます。

Withコロナの中で、保護司様を始め更生保護関係団体の皆様と活動を続けてこられましたことを、まずもお礼申し上げます。

さて、昨年度は私どもの「愛の図書」寄贈運動が認められ、「日本更生保護協会」が設立された

「立ち直り応援基金」から助成金を頂くことが出来ました。早速、活動周知のリーフレット等々を作成致しました。

これもひとえに皆様の温かいご協力ご支援の賜物と、心より感謝申し上げます。

兎のように今年度も優しさやしなやかさで愛の図書贈呈を基に、「感動する心」や「人を思いやる心」を培う活動を続けて参ります。

※毎年、更生保護関係機関・団体の長に順次ご挨拶を頂戴しています。



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

松江保護観察

所長 西江 尚人

島根県保護司会連合会

会長 井谷 耕造

更生保護法人 島根保護観察協会

理事長 櫻井 誠己

更生保護法人 しらふじ

理事長 大野 美雄

島根県BBS連盟

会長 春日 智徳

特定非営利活動法人 島根県就労支援事業者機構

会長 金津 任紀

受章者

更生保護功労による叙勲・褒章（敬称略）

瑞宝双光章 井谷 耕造（松江）
瑞宝双光章 谷岡美榮子（雲南）
藍綬褒章 濱本 義基（浜田）



更生保護と私と家族

島根県保護司会連合会

会長 井谷 耕造

今般図らずも秋の叙勲におきまして、「瑞宝双光章」受章の榮に浴しました。これも偏に、保護観察所を始め更生保護関係者の皆様のご指導ご鞭撻の賜物と心より感謝申し

上げるところです。

思い起こせば、平成9年保護司に委嘱され早や25年が経過いたしました。その間、多い時には三人同時に担当する時期も続きました。当時は、仕事はもとよりPTA、ライオンズクラブと大変多忙で妻を始め家族にも大変迷惑をかけました。

今回の受章は家族全員ものと受止め喜びを分かち合い、今後とも更生保護の活動に寄与したいと思っております。



私の宝物

雲南地区 谷岡 美榮子

この度、令和4年度の叙勲に際し、思いもかけない瑞宝双光章を受章させて戴きました。

これまで、ご指導お力添えを賜りました皆様方から感謝し、厚く御礼申し上げます。

保護司を拝命して33年、対象者の思いに寄り添い

ながら、自分自身が学ぶことも多く、反省することもしばしばでした。そんな中、元気で生き生きと働いている姿を見たり、幸せな家庭生活を送っているという近況を聞いたりすることは本当に嬉しく、当時の一人ひとりの笑顔が思い浮かんで来ます。また、この度の受章を自分のことのように嬉しいと喜んで下さった沢山の方々の笑顔も私の宝物です。今後も微力ではありますが、誰もが安心して笑顔で暮らせる社会作りに努めて参りたいと思っています。



二十五年を振り返って

浜田地区 濱本 義基

25年前当時浜田保護司会役員の方から電話を頂き保護司として歩き始めた私は、松江保護観察所の皆様、

浜田保護司会の先輩同僚諸氏から、沢山の叱咤激励を頂きました。つたないながらも今日までなんとか続ける事ができたのは、そのおかげだと思っております。もうすぐ任期も終わると思っていた今秋藍綬褒

章をとの連絡をいただき驚きと感謝の念で一杯です。

落葉樹の葉が役目を終え晩秋の陽射しの中散り行く様は、寂しさもありますが同時に次世代へのリレーを見る思いもします。残された保護司としての任期、晩節を汚さず、できるだけの事をやりたいと思っておりますので皆様には最後までのご指導をよろしくお願いいたします。犯罪の無い、被害者の生まれない社会、目指す場所は、まだ先にあると思えます。保護行政に携わられる皆様の一層の奮闘を願っております。それと同時に皆様には、感謝の気持ちで一杯です。本当に有難うございました。

令和4年度 島根県更生保護事業関係者顕彰式典



法務大臣表彰(更生保護法人)伝達



全国更生保護法人連盟理事長表彰伝達



櫻井島根保護観察協会理事長開式の辞



法務大臣表彰及び感謝状受彰者



井谷島根県保護司会連合会会長式辞



西江松江保護観察所長あいさつ

令和4年11月2日(水)、爽やかな秋晴れの下「くにびきメッセ」に約70名の更生保護事業関係者が参集して、令和4年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典が開催され、永年更生保護関係事業に多大な功績のあった更生保護関係者387名と島根県公民館連絡協議会等の民間功労18団体に対し、表彰状及び感謝状が授与されました。



林松江地方検察庁検事正来賓祝辞



全国保護司連盟理事長表彰伝達



受彰者代表謝辞

記者の目から見た更生保護



次の被害者を生み出さないために

山陰中央新報社 編集局報道部

記者 古瀬弘治

51.9%。2020年の島根県内の検挙者数に占める再犯者数の割合「再犯者率」だ。検挙者数も再犯者数も減少傾向ではあるが、再犯者数の減少が小さく、再犯者率は増加傾向にある。再犯をいかに防ぐのか。犯罪で苦しむ被害者を減らす上で、犯罪の未然防止とともに重要な要素の一つだろうと考える。私自身、保護司の方など更生保護に関わってきた方々の話を聞き、取材を重ねるなかで、改めてこの思いを強くした。

私は記者6年目。入社後、地域のイベントなどを取材する記者を経験し、その後、益田市で市政や警察を担当。2021年から島根県警記者クラブに所属し、キャップとして、事件、事故を中心に取材し、更生保護も一つ分野だ。殺人未遂や強盗、性犯罪、万引きといった犯罪は私たちの身の回りでこれほど多く起き、暮らしを脅かす状況なのだと思えばかなりの日々が続いている。裁判では、生活に苦しみ、罪を犯してしまう人、罪を悔い泣きながら裁判長に向き合う人、悪びれる様子もなく裁判に臨む人など、さまざまな人模様を見つめる。

更生保護に関連した取材のなかで、忘れられない言葉がある。

「私自身、『この子たちは更生できない』と思っていたが、関わるうちに、その思いは変わった。環境や心情が変われば、誰でも更生できる」。

2021年3月末に閉鎖した少年院・美保学園の運営に携わっていた90代の男性が私の取材に答えてくれた。男性は美保学園の設立当初から携わり、少年たちの相談相手となっていたという。まさに保護司と同じように、ボランティアで関わっていた。この言葉こそ、更生保護に携わる人もそうでない人も心に刻むべき言葉なのだろうと思う。取材のなかで、あるエピソードを聞いた。美保学園でボーイスカウトを行おうとした時の話。地元団体の理解を得て、「いざ加盟へ」の段階で、統括する本部から待ったが掛かったという。「犯罪者は危ない。そんなレッテルがあったのだから」。そう述懐してくれた。私自身、犯罪者というレッテルの怖さ、犯罪者に向けられる「偏見」の根深さを思い知った。男性はそん

な経験が根底にありながら、少年たちと関わるうちに、その優しさ、純粹さに気持ちが変化していったという。

ただ、多くの人の心の中には、同じような偏見があるのではないだろうか。この偏見やレッテルを解消するためには、多くの時間が必要で、その過程にはさまざまな取り組みが必要だろう。その一翼を担っているのが、保護司の方々だと考えている。島根県内は、保護司の定員を全国で唯一充足し、515人もの方々が活動しているという。更生保護への土壌は他県よりも整っているように思う。さらに、私が着任して以降、保護司の面接時の環境ややり方に工夫が加えられた。保護司という活動を多くの人が身近に感じ、若い世代などさまざまな人が関わることでさらなる発展につながる。

制度的な課題は残る。保護司などが関わる「出口支援」と罪を犯した当初からの支援「入口支援」の関わりはまだまだ薄い。島根県内では更生支援コーディネーターなどが活躍しているものの、より緊密な連携が必要で、この連携が再犯防止につながるだろう。

翻って、私たち報道機関に求められる役割も大きい。更生保護は一般人からみれば縁遠く、「とっつきづらい」分野。その分野をいかに分かりやすく伝え、自分事として考えてもらうのか。日々、取材や原稿に向き合い、頭を悩ませる。「犯罪者は自分の周りにはいない」「自分の周りで犯罪は起きない」。誰もがそう思っているだろう。安全・安心な状況がそう思わせるのだから、現状は違う。日々の取材で、その多さ、どこで起きてもおかしくない実情を見る。この実情こそ、更生保護に向き合う一歩目ではないだろうか。

報道機関は、「加害者」、「被害者」双方への取材をし、どちらの立場にも立つ。だからこそ伝えられることや言葉がある。私自身、報道機関の一員として、この思いを忘れることなく、被害者を生み出さないために、更生保護も含めたさまざまな分野への取材に取り組みたい。

日々の暮らし 前を観ながら振り返る

大田地区 増澤寛順

毎年この時季になると自然の恵みを強く感じます。外の景色を眺めるが楽しみです、日に日に草木々が色づいてきます、黄色から朱色そしてなんとも綺麗な紅色に染まり、それぞれに変化して六根を刺激してくれます。春には芽吹き夏には実をつけ秋には実り葉を落とし、そして冬には来る年に向けて寒さに耐え自然界は命のリレーをします。

私たちの日常生活・衣食住も日に日に移り変わっています。過去・現在・未来を見つめ考えて次の世代に送りたいと思います。そしてコロナ過の中で、今までの生活が一変しました。又世界ではロシア・ウクライナ戦争、領土争い一部の支配者により多くの人々が戦争の犠牲者となり、住む場所を奪われ難民生活、食べる物も無く日々の暮らしに、大人や子ども達が苦しみ悲しみ怯えながら生きています。

視点

焦点

高度成長・技術開発（敗戦終戦後）目まぐるしい発展をしてきました。しかしその反面、形ある物は何でも手には入りますが、目に見えない物が思うようになりません。またあまりにも悲しい無残な事件事故が多発しています。

美味しい食事をして楽しい旅行をして、日常を過ごしてきましたが、同じようには中々続かない様に、永遠のものではありません。この日常に対して非日常の行い。普通ではないことを普通にする生活も有る事を考えて行動しなければなりません。

諸行無常 是消滅法 生滅滅已 寂滅為楽
……（四句の偈）

いろはにほへどちりぬるを ……（いろは歌）

強い私、弱い私、表と裏、日向と日陰、この両面を見極めこの世の中、生きとし生けるもの全ての命が、平等平穏で有る事を祈りたいです。

地区だより

保護司・更生保護女性会員・BBS会員 連携強化研修について

益田地区 杉原寛臣

平成28年12月に「再犯防止等の推進に関する法律」が公布・施行され、再犯防止施策は地方公共団体や民間組織も協働して取り組むべき課題となっております。

当益田地区内においても現在、益田市及び津和野町で「再犯防止推進計画」の策定が進められており、再犯防止には各関係機関が相互に連携をしていくことが重要となってきております。このような背景を受けて当益田地区保護司会においては、去る10月13日（木）松江保護観察所主催で、三者（益田地区保護司会 益田地区、鹿足地区更生保護女性会 島根県BBS連盟）が相集い（参加者158名）、益田市美都町「ふれあいホールみと」において、満期出所者の社会復帰の姿を通じて、再犯防止の課題等が描かれた映画「すばらしき世界」の鑑賞、そのあとフロアと主催者との質疑応答が行われ、終了後「ふれあいホールみと」内の会議室へ移動し、三者連携研修協議会が開催されました。会議冒頭、松江保護観察所長から三者連携に対する経過、今後の進め方等に

ついて説明を受け、予め選任された委員（益田地区保護司5名 益田地区更女2名 鹿足地区更女2名 BBS会1名）から、三者連携について前向きに取り組む必要があるという発言が相次ぎ、現在、非行少年等さまざまな立場の少年に「兄」や「姉」のような立場で接し、一緒に悩み、学び、楽しむことを通じて、少年の立ち直りや自立を支援するBBS会についても現在、休会中の「益田地区BBS会の立ち上げ」を各機関連携して取り組んでいくことで一致をしました。

今後、従来から地域に根差した活動を展開してきた保護司、更生保護女性会、BBS会などの更生保護関係機関の役割は一層大きくなるものと考えられ、更生保護の諸活動を充実していくためには、各機関が相互に連携をしていくことが重要であると再認識をさせていただきましました。



第72回“社会を明るくする運動” 作文コンテスト島根県最優秀作品



未来を創る「社会復帰」

小学生の部

島根県・大田市立川合小学校・6年

中村 早那

ある日、テレビを見ていると、気になる内容が目に入りました。それは飲食店の所有物を破かいしてしまった人の話でした。その人はコロナにより仕事がなくなったことでイライラし、飲食店の物を破かいしたそうです。怒りを周りにぶつけるなんて自分勝手だと思いました。しかしその後、飲食店に謝り、お店の手助けをすることで許してもらい、社会人として立派な人になっていました。「間違っただけで、社会にもどって来られる希望がある。」私は、この話を聞いてそう思いました。

世の中にはちょっとしたそやいたずらから万引きや殺人などの大きな犯罪までたくさんあります。うそをついたり、いたづらをしたりすると周りの人にしかられて反省をします。だけど、罪を犯した人はしかられるだけではありません。刑務所に行って反省をします。

では、反省をして罪をつぐなった後、社会復帰するにはどうすればいいのか、私たちには何ができるか、と聞かれると私は悩みます。飲食店の件では許してもらい、社会復帰できましたが、全ての人が完全に社会復帰できるとは限りません。

私は、社会を明るくする運動のパンフレットを読み、保護司という存在を知りました。保護司は、犯罪や非行をした人達に寄りそい、社会復帰できるように手助けをします。このような立場の人がいるおかげで、罪を犯した人達は社会にもどって来られる

のだと思いました。

しかし、保護司の方だけでは完全に社会復帰できるとは思いません。罪を犯した人が社会復帰をするためには地域のつながりが大切だと考えました。私の住んでいる町は人との関わりが多い町だと思います。地域の行事や町の見守りなど、たくさんの人が協力して行っています。私のおばあちゃんもボランティアで地域の掃除をしに行きます。私だったら「めんどくさいなあ。」とってしまいます。でも、地域のために掃除をしているおばあちゃんの姿を見ると、「これも地域のつながりを作ることの一つなのではないか。」と気付きました。

罪を犯した人が地域にもどって来た時、周りの人や私たちが白い目で見たり、うわさをしたりするのではなく、温かく見守る。そして、地域のつながりを大切にして、安心してもどって来られる環境を作る。これが悩んだ末の私の考えです。

犯罪や非行をしたからって、人権がなくなったわけではありません。間違いのない人生を歩んでいる人は一人もいません。大切なのは、間違いを受け止め、更生する心をもっているかどうかです。そして、周りの人が更生した人を温かく受け入れる心をもっているかどうかです。その心があれば、明るい社会を創る第一歩につながるのではないかと思います。

第72回“社会を明るくする運動” 作文コンテスト入賞者

応募総数1703点 (小学校 650点)
中学校1053点

【小学生の部】

最優秀賞

第72回“社会を明るくする運動”

島根県推進委員会委員長賞 (1位)

『未来を創る「社会復帰」』

大田市立川合小学校6年 中村 早那

優秀賞

島根県保護司会連合会長賞 (2位)

「人を思いやる心」

松江市立義務教育学校玉湯学園5年 松山 雄哉

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞 (3位)

「大切なのは自分・相手のことを理解すること」

出雲市立平田小学校6年 長岡 佑弥

山陰中央新報社賞

「見た目で判断していいの?」

松江市立中央小学校6年 足立 奈々子

「いじめをなくすために私達ができること」

浜田市立原井小学校6年 土田 優菜

島根県更生保護女性連盟会長賞

「みんなと笑顔で」

出雲市立西田小学校6年 福田千紗季

「心と心、人と人とのつながり」

浜田市立長浜小学校5年 土田 望華

島根県BBS連盟会長賞

「ロッキーが教えてくれたこと」

隠岐の島町立都万小学校5年 安部 柑菜

「みんなが過ごしやすい町にするために」

松江市立鹿島東小学校6年 青山 千秋

※この作品は、第72回“社会を明るくする運動”作文コンテスト全国最終選考審査会においても、全日本中学校長会会長賞（優秀賞）に選ばれています。



刑務所見学から 学んだこと

中学生の部

島根県・浜田市立旭中学校・2年
竹田 風沙

私は、父が刑務官なので、刑務所のすぐ近くに住んでいます。そこの刑務所で、刑務所の中を見学できるというイベントがありました。私は、父が仕事をしている職場に興味があったのでそのイベントに参加してみました。

私はそのイベントで、とても印象に残ったことがありました。それは、服役中の受刑者が過ごしている居室のドアが内側から、つまり、受刑者が自ら開けられる仕組みになっていたことです。その仕組みを説明してくださった方が、

「他の刑務所にはあまりなく、うちの刑務所だけなんだよ。」とおっしゃっていました。私はその話を聞いた時、自分で開けられるなら脱走をしたりする人もいないのではないかと思いました。

そんな不安な気持ちになった私は、「ドアが自分で開けられるなら、脱走をする人もいないんじゃないの?」

と、父に言ってみました。すると父は、「自分でドアを開けられるほうが信頼されている感じがしない? だから、その期待に応えようとするんじゃない?」と、返してくれました。確かに、もし私が受刑者だったら、ずっと部屋の中に閉じ込められているときより、自由に外に出られたほうが外に出たいと思う事も少なくなり、脱走をしないかもなと思いました。また、その仕組みのほうが社会に出て行ったときも立ち直りやすくなるのかなと思いました。だから私は、その仕組みは受刑者の方のためにとてもいいと思いました。

また、その刑務所では、服役中の受刑者が野菜作りやパン作り、介護福祉の職業訓練、工場で作る職業訓練など、社会に戻ったときにちゃんと仕事ができるように職業訓練をしているそうです。私も、訓練生が作ったトマトやパンをよく食べます。最初に訓練生の方が作ったトマトやパンを食べたときは、受刑者の方が作ったということで、食べるのが少し怖かったです。でも、トマトは他のトマトと比べてもとても甘いし、パンもとてもおいしいので、私はすぐに、刑務所で作られるトマトやパンが

大好きになりました。今では、

「今日は、訓練生の方が作ったトマトだよ。」

と母に言われたときはとても嬉しく、いつも楽しみにしています。

こういった活動をしていくことで、刑を終えた受刑者はちゃんと社会になじめるようになると思うし、ちゃんと働いていくこともできるようになると思うので、こういった活動はとてもいいなと思いました。また、囲いの中で過ごしているだけだと、受刑者の方もストレスがたまると思うけど、頭や体を使って仕事をしたら、受刑者の方のストレス発散にもなるので、職業訓練はとてもいいなと思いました。こういった活動でも脱走する確率は下がっているのかなと思いました。

以前、実際に刑務官の方が私の学校に来てお話をしてくださったことがありました。そのときに、とても印象に残った言葉がありました。それは、

「刑を終えて、社会に戻ってきた時の周りの人の対応が大事なんだよ。もし、社会に戻ってきた時に冷たい反応をされたら、もう一回犯罪を起こしてしまうかもしれない。だから、周りの人が受け入れてあげることが大事なんだよ。」

という言葉でした。

私は、はっとしました。今まではそんなことを考えたことがなかったからです。でも確かに、もし私が刑務所から出てきたときに、周りの人に冷たくされたら、いろいろなことが嫌になって、もう一度、罪を犯してしまうかもしれないと思いました。だからこれから、私の周りにもし刑を終えて社会に出てきた人がいたら、怖がらずに普通に接したいなと思いました。でも、最初は怖いと思ってしまいかもしれないけど、刑務所から出てきた人もちゃんと更生しようと思っていると思うので、怖がらずに自分から話しかけたいなと思いました。また、私だけではなくみんなが、刑を終えて社会に戻ってきた人に普通に接して刑務所から出てきた人が同じ犯罪を繰り返さない世の中になってほしいです。

【中学生の部】

最優秀賞

第72回“社会を明るくする運動”
島根県推進委員会委員長賞（1位）
「刑務所見学から学んだこと」

浜田市立旭中学校2年 竹田 風沙

優秀賞

島根県保護司会連合会長賞（2位）
「未来の自分」

益田市立美都中学校2年 斎藤 佳斗

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞（3位）

「守られる意味とは」

雲南市立大東中学校3年 藤本 陽菜

山陰中央新報社賞

「私の友達」

出雲市立第二中学校1年 金田 彩椰

「少年犯罪について」

出雲市立南中学校3年 阿食 香奈

島根県更生保護女性連盟会長賞

「つながる声」

出雲市立斐川東中学校1年 仁木 ふみ

「本当の助けるとは」

浜田市立第二中学校3年 上野 葉愛

島根県BBS連盟会長賞

「立ち直れる町」

雲南市立海潮中学校3年 神庭 来羽

「相談の大切さ」

隠岐の島町立都万中学校2年 高村 悠飛

 **未来へつなぐ愛の図書**
 ~学びの機会を愛の募金から~

島根県更生保護女性連盟 副会長 中島 和子

『令和4年度第62回愛の図書贈呈式』を12月2日(金)松江保護観察所において、県下の理事が一堂に会し、県保護司会連合会井谷会長、松江保護観察所西江所長、県BBS連盟杉原副会長にご臨席賜り、執り行うことが出来ました。

コロナ感染拡大を鑑み、受領施設代表の松江刑務所と双樹学院の2施設に図書カードを贈呈し、その他の施設には、最寄りの会長がお届けいたします。

なお、コロナ禍で募金額が減っていますが、こんな時だからこそ今年新たに、例年の10施設に加え、児童養護施設の双樹学院、安来学園、聖煌寮の3施設にも贈呈することにいたしました。

特に、私達更女の最も特色のある活動が、この寄贈運動で、子どもたちや、心ならずも罪を犯した人達に《感動する心》《人を思いやる心》を培って欲しいと願い、地域の方々からいただいた募金で、各市町村の幼稚園、保育所、小中学校等にも図書カードを贈呈しています。購入された本の写真、感想文と共に、心のこもった感謝のことが沢山寄せられます。これを励みに、1961年からスタートした活動が末永く続きますよう、気持ちを新たにしているところです。



贈呈先
 松江刑務所・松江少年鑑別所・中央児童相談所・出雲児童相談所・浜田児童相談所・益田児童相談所・児童自立支援施設わかたけ学園・更生保護施設しらふじ・島根あさひ社会復帰促進センター・島根県女性相談センター
 新たに
 児童養護施設双樹学院・安来学園・聖煌寮

敬弔
 下記の方がご逝去されました。ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。
 元保護司 村 社 征 利 (安来)
 (令和4年11月5日逝去)

— 訂正とお詫び —
 令和4年10月1日発行「島根更生保護」8頁「敬弔」欄掲載の「元保護司 渡部幸子」様とありましたのは、誤りでしたので、訂正させていただくとともに心からお詫び申し上げます。

保護司の異動

令和4年11月30日(水)サンラポーむらくもにおいて、同日付で保護司を退任される皆様への法務大臣感謝状の伝達式が開催されました。また、同年12月1日(木)には、松江保護観察所において、同日付で保護司を委嘱される皆様への辞令伝達式及び新任保護司研修会が開催されました。退任及び新任の保護司の皆様は次のとおり(退任10名、新任16名)です。



〔退任保護司〕10名
 (令和4年11月30日付)
 小川英二(松江) 仲田彰仁(松江)
 土谷文江(雲南) 小村恵子(出雲)
 中井秀三(大田) 益子原民生(浜田)
 三瀧香順(浜田) 齋藤泰勉(益田)
 下森敦之(益田) 小田泰史(隠岐)

〔新任保護司〕16名
 (令和4年12月1日付)
 糸賀一峰(松江) 梶野孝彦(松江)
 金津義彦(松江) 土屋奈津子(松江)
 上代一治(雲南) 上屋博子(出雲)
 片寄靖久(出雲) 昌村春美(出雲)
 植江志朗(出雲) 種来由美(邑智)
 土田圭介(浜田) 原益美(浜田)
 益子原公孝(浜田) 倉益美(益田)
 堀直己(益田) 和田朱美(益田)

●松江保護観察所職員異動●
 (令和5年1月1日付)
 保護観察官 土屋博紀
 (松江・浜田保護区担当)

ご支援ありがとうございました
 (島根保護観察協会) 敬称略
 山下 壮一 谷岡美榮子
 株式会社栄徳 代表取締役 山下 壮一
 島根県更生保護女性連盟

(表紙写真説明)
 雪の里山
 昭和の頃、浜田市金城町は雪深いところでした。近年は降雪量の減少で里山はうっすら雪化粧、これも地球温暖化の影響でしょうか。はっきりした春夏秋冬があることで、私たちの生活は潤いを感じるものと思います。

令和4年度 島根県更生保護事業関係者顕彰式典受彰者一覧 (敬称略)

—令和3年 秋 叙勲、褒章—

瑞宝双光章 徳江良弘(雲南) 藍綬褒章 仙田芳弘(安来)

—令和4年 春 叙勲、褒章—

瑞宝双光章 三島洪道(出雲) 藍綬褒章 藤井好文(大田)

安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰 (10月12日付)

島根県立松江工業高等学校 JRC部

法務大臣表彰 (9月27日付)

〔保護司〕

藤山扶二子(松江) 橋浦加枝子(松江) 須山哲好(雲南) 高松原千草(雲南) 安部陽子(雲南)
津村信隆(大田) 浦田明彦(浜田) 田村庄道(益田) 榊原信也(隠岐)

〔更生保護法人役職員〕

原本達治(観察協会) 川島昇(観察協会)

法務大臣感謝状

〔更生保護女性会員〕(6月20日付)

野津イマ子(松江) 白根三代子(大仁)

〔BBS会員〕(9月27日付)

安達征夫(出雲)

〔“社会を明るくする運動”民間協力者〕(11月2日付)

JAしまねくにびき地区本部(松江)

全国保護司連盟理事長表彰 (9月27日付)

〔保護司〕

三島律子(松江) 鳥屋尾修康(松江) 深貝恭悦(松江) 小池清子(安来) 藤原静雄(雲南)
三成歳(出雲) 市場隆子(出雲) 園山久美子(出雲) 原池清洋(出雲) 毛利静敏(大田)
花田實(浜田) 渡邊健一(益田)

〔内助功労者〕

大内康子(益田)

全国更生保護法人連盟理事長表彰 (9月27日付)

佐目葆(観察協会)

日本更生保護女性連盟会長表彰 (6月20日付)

〔更生保護女性会員〕

板倉靖子(東出雲) 山本良江(宍道) 為国角(伯太) 波多章代(海士)

島根県知事感謝状 (11月2日付)

小川英二(松江) 小村恵子(出雲) 齋藤勉(益田)

中国地方更生保護委員会委員長表彰 (11月2日付)

〔保護司〕

藤原山良(松江) 桑林嶋幸治(松江) 北細原則夫(松江) 小塚昭郎(松江) 板葉根政廣(松江)
上若月雅(雲南) 濱村芳文(出雲) 石川潤子(安来) 山千代延(松江) 山本福金(松江)
川上正文(出雲) 石飛博雄(出雲) 尾原悦子(出雲) 千代延(松江) 板葉福金(松江)
岡本正博(浜田) 古永千恵美(益田) 石田悦子(益田) 千代延(松江) 板葉福金(松江)

〔更生保護法人役職員〕

田中廣(しらふ) 池田祐二(しらふ)

中国地方更生保護委員会委員長感謝状 (11月2日付)

〔更生保護女性会員〕

金崎昭栄(松江) 板垣登美子(松江) 福田仁子(美保) 板谷裕子(玉湯) 太田泰子(宍道)
細田美佐子(安来) 小林みず江(広瀬) 福門脇江子(伯太) 加本美知子(大仁) 田角子(飯石)
青山榮子(平田) 奥野愛子(平田) 倉高千鶴(平田) 陰和子(斐川) 三島子(斐川)
三島弥生(佐田) 川上明子(多伎) 高堀悦子(大社) 和子(江津) 鎌田子(浜田)
野上フサエ(浜田) 中村明子(益田) 堀江子(鹿足)

〔BBS会員〕

河内佑太(松江) 高倉雄太(松江) 樋口萌(松江) 川口彩織(松江) 桐島春佳(松江)

〔協力雇用主〕

I.N.G技建 代表 北山一磨(松江)

中国地方保護司連盟会長表彰 (11月2日付)

〔保護司〕

石富修(松江) 板倉省吾(松江) 今津祐子(松江) 梶谷り子(松江)
木幡勝(松江) 長澤一夫(松江) 那須信重(松江) 萬代子(松江)
永島博巳(安来) 陶山頼子(雲南) 糸竹孝(出雲) 泰久志(松江)
永野博己(出雲) 胡摩弘(大田) 下道夫(大田) 崇志(出雲)
小川ひとみ(浜田) 齋藤實(浜田) 藤野美智恵(益田) 富純子(益田)
友重良子(益田) 増野美智恵(益田) 山島一(益田) 美道(益田) 井上美(益田) 樹(隠岐)

